

【2020年3月16日に弊社から送信した電子メール】

東芝機械株式会社取締役会御中

お世話になっております。

3月12日付の貴社書簡を受領いたしました。本書簡は貴社のアドバイザーが作成されており、貴社経営陣の皆さまがご自身で株主に向き合われていないことを大変残念に思います。弊社は貴社との建設的な対話を望んでおります。本書簡では弊社との対話については「貴社との対話につきましては訂正公開買付届出書の内容も確認させていただいたうえで実施タイミングを検討したい」と書かれております。現在弊社は訂正公開買付届出書の提出のプロセスを進めておりますが、事態は刻々と変わる一方、訂正届出書のドラフト提出から本提出まで、約一週間かかることが予想されます。現時点の重要な状況を全て訂正届出書に反映しなければ、対話ができなくなると、公開買付期間中は対話は困難となります。コーポレートガバナンス・コード基本原則5【株主との対話】に則り、建設的な対話を行い、その結果を含めて訂正公開買付届出書に記載するのが合理的ではないでしょうか。

また富永様から頂きました、メールには「加えて、昨日お電話いただきました御社と当社の対話につきまして、TOBが撤回されているわけでもなく、現状の書簡のやり取りを踏まえると建設的な対話ができると思えませんので、お申し出につきましてはお断りいたします。」と記載されており、貴社の本来の意向としては、訂正公開買付届出書の提出如何にかかわらず、公開買付けの撤回までは、公開買付者グループとは対話の機会を設けることを拒否しているということでしょうか。

弊社らは、これ以上貴社との対立を継続させることは望んでおらず、また対立が激化することは他株主の皆様の株主価値向上にも繋がりません。

ここは一度建設的な対話の場を設けていただけますよう強く要望いたします。

株式会社オフィスサポート

福島啓修